

団体概要

団体名称

特定非営利活動法人 ピッコラーレ

団体ヒストリー

2015年 9月	助産師6名、社会福祉士1名で任意団体として「にんしんSOS東京」を発足
2015年12月	妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」を開始
2016年 3月	一般社団法人にんしんSOS東京を設立
2018年11月	特定非営利活動法人ピッコラーレ設立
2019年 4月	全ての事業を一般社団法人にんしんSOS東京からピッコラーレに移管



特定非営利活動法人

ピッコラーレ

Piccolare Annual Report 2019

特定非営利活動法人ピッコラーレ 2019年度活動報告書

Piccolare Annual Report 2019

特定非営利活動法人ピッコラーレ 2019年度活動報告書

発行 2020年9月

特定非営利活動法人 ピッコラーレ

〒171-0041 東京都豊島区千川2-6-14

☎ 050-3134-4479
✉ info@piccolare.org
🌐 <https://piccolare.org>



project HOME

📱 <https://home.piccolare.org/>



絵・相野谷 由起

妊娠葛藤の背景にあるもの

「妊娠葛藤」とは、「妊娠したかもしれない」、「妊娠してしまったが、どうしてよいかわからない」など妊娠におけるさまざまな葛藤を指す言葉です。ピッコラーレは、妊娠葛藤相談窓口を2015年12月に開設しました。

妊娠葛藤……

おそらくほとんどの方にとっては、耳慣れない言葉ではないでしょうか。

ピッコラーレの妊娠葛藤相談窓口には、毎月150人近く*の方から「妊娠したかもしれない」、「妊娠してしまったが、どうしてよいかわからない」という相談が寄せられます。

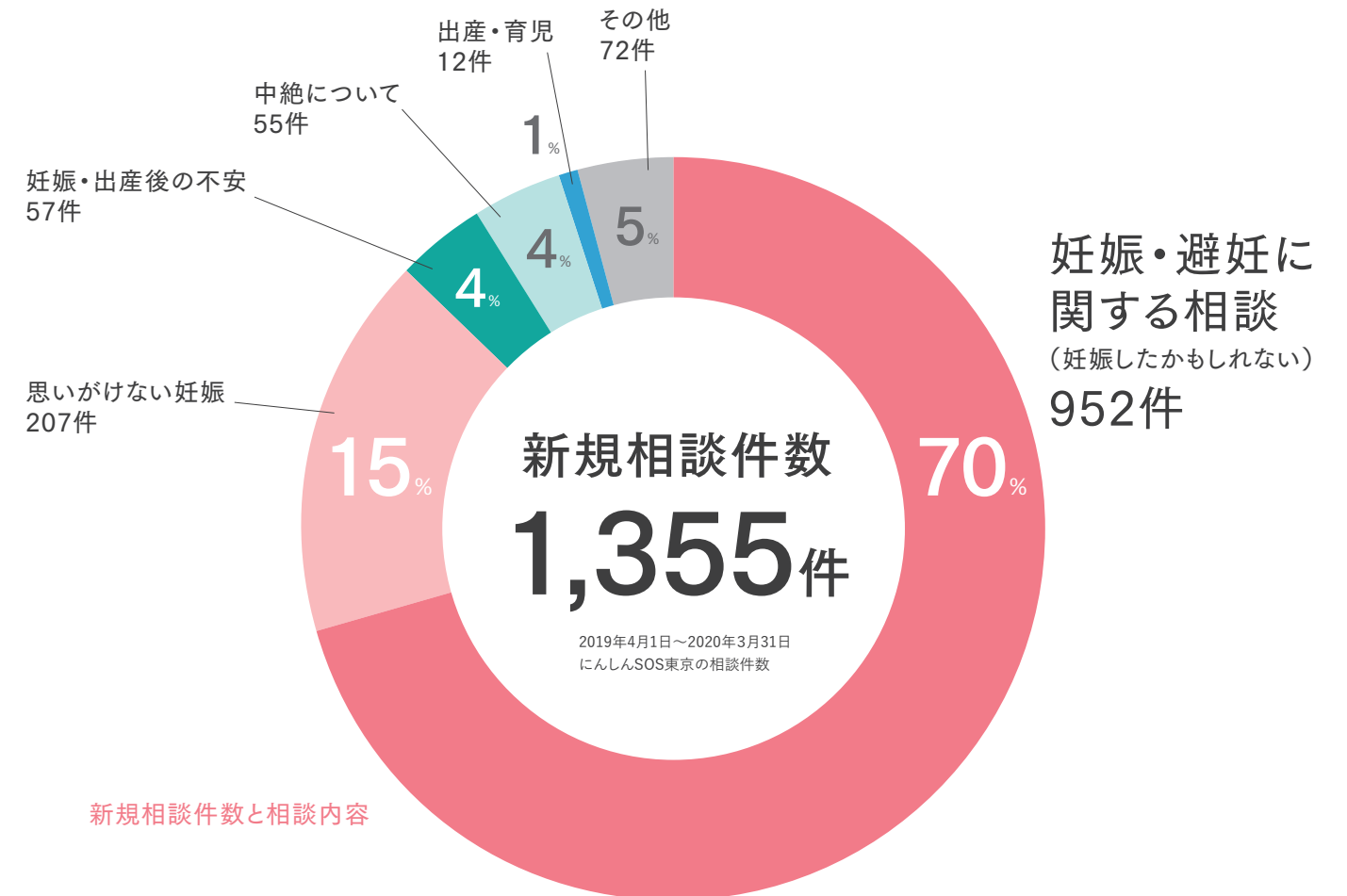
7割は避妊の失敗、月経の遅れなどによる「妊娠したかもしれない」という相談、

2割が「妊娠してしまったが、どうしてよいかわからない」という相談です。

日雇い派遣で週6〜7日働きながらインターネットカフェ難民をしている自称「野良妊婦」は、病院をたらい回しにされる不安を口にしました。公園の自販機で暖を取りながら連絡をくれた妊婦は、足を伸ばして寝たいがために頼った男性に暴力を受けていました。

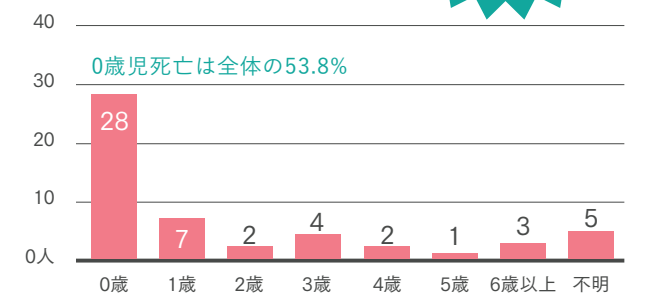
妊娠を思い悩み、誰にも相談できず、一人で葛藤を抱え込んでいる現実は、見えにくいけれど、たくさんあります。そして、この課題はどこか知らないところで起きているのではなく、見ようとすれば、すぐ身近で起きています。そのことを、たくさんの人たちに、知って感じて考えていただきたいのです。

*2019年4月1日〜2020年3月31日 にんしんSOS東京の相談者数 月平均146.5人 総相談者 1,758人



2018年度の子どもの虐待死は、心中を除いて年間52人でした。そのうち、0歳児の死亡はその約半数の28人。その半数の14人は、生まれたその日に死亡しています。14人中11人の加害者は実母。そのうち7人は24歳までの若年者で、すべてが医療機関での出産ではなく、自宅のトイレや風呂場で出産しています。おそらくたった一人で、自分自身の命の危険を言しながらやつの思いで産んだのでしょうか。どれほどの恐怖だったか。「赤ちゃんを助ける気持ちよりも誰にも知られたくない気持ちの方が強かった」。虐待死の加害者となってしまった彼女の言葉です。この言葉の後ろにどんな思いがあるのでしょうか。誰かに知られたら、それまでの生活の基盤が全てなくなってしまうかもしれない。その絶望がどのくらいなのか、私たちは想像しなければなりません。そもそも彼女たちは加害者なのでしょうか？妊娠は自己責任ではありません。社会に彼女たちを支える仕組みがないことが問題ではないでしょうか。避妊の手段がもっと安価でたくさんあったなら、妊娠出産が公費で賄えたなら、そして、社会が若年妊婦を孤立させない仕組みを持っていたなら、彼女たちは加害者にならずに済んだかもしれないのです。

死亡時点の子どもの年齢
子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について
(第15次報告)



虐待死
年間52人
2018(H30)年度

日齢0日死亡は、虐待死なのでしょうか？

「にんしん」をきっかけに、誰もが孤立することなく、自由に幸せに生きることができる社会へ



代表理事
中島 かおり

妊娠葛藤相談窓口で相談者さんの話を聞く中で気がついたことがあります。彼らは、妊娠をするずっと前から、貧困や虐待、暴力の中を生き、社会的な排除を経験し、孤立していました。今ある少ない選択肢の中から、それでもその時の最善を探し、今よりもより安全だと思える場所に自分の力でたどり着き、懸命に生き延びようとしていました。そんな、彼女たちの存在を世間の人達はまだまだ知りません。彼女たちのSOSに気がついたとしても、社会は見て見ぬ振りをしているし、どこかに繋がることができたとしても今ある制度はとても使いにくく、困難を抱えた妊婦のための法律もありません。彼らの必死のSOSに「もう大丈夫」と言うことができない大人たち。妊娠を自己責任としたままにいる社会。私たちの社会が「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(性と生殖に関する健康と権利)を大切にできていないから、妊娠葛藤する妊婦は孤立し、見えなくされているのだとも言えるでしょう。

2019年度から、私たちはこれまでの妊娠葛藤相談窓口の取り組みから見えてきたこれらの課題に対して、「妊娠葛藤相談窓口の運営」だけでなく、「調査研究・政策提言」、「project HOME」、「研修・啓発」という新しい取り組みをスタートしました。

私たちが大切にしたいのは、妊娠をした彼女たちが、中絶しても、出産しても、「ここにいていいのだ」と思える場所が社会の中にあること。「生きていていいのだ」と思える場所をいつか見つけられること。産む産まない、育てる育てないにかかわらず、「にんしん」をきっかけに、誰もが孤立することなく、自由に幸せに生きていける社会の実現を目指して、これからも取り組みを進めていきます。

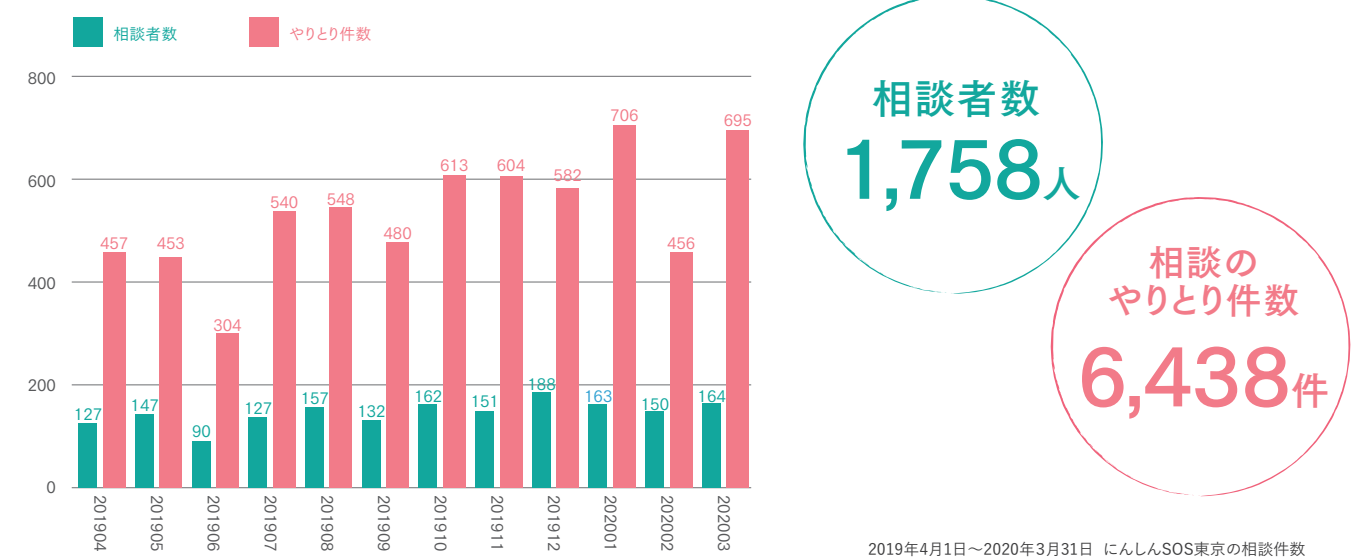
妊娠葛藤相談窓口に寄せられる声を聞くことによって見えてきた「課題」解決への取り組みとして、現在、以下の事業を行なっています。



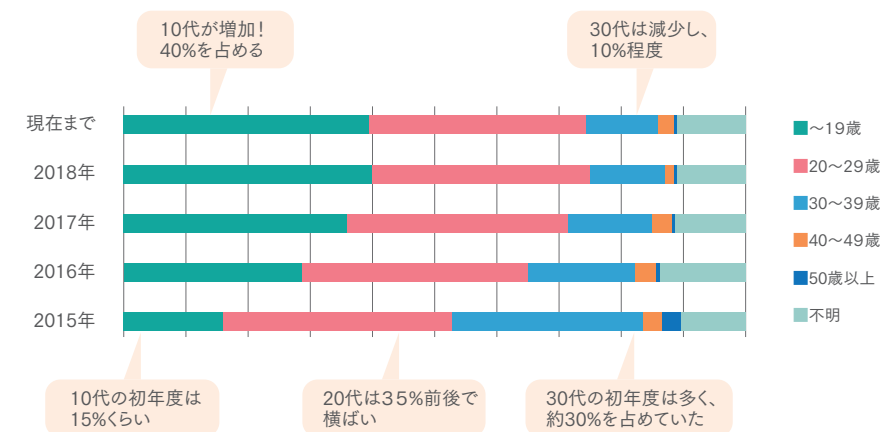
相談支援



首都圏を中心に北海道から沖縄まで、全国から相談が寄せられています。



2019年度、相談者数は**1758人**。相談のやりとり件数は**6438件**でした。窓口を開設した2015年12月～2017年3月までの相談者は**460人**、やりとり件数は**2749件**。以降、2017年度：相談者**772人**・やりとり件数**3947件**。2018年度：相談者**975人**・やりとり件数**4863件**。毎年、相談者数は増え続け、現在も増加しています。

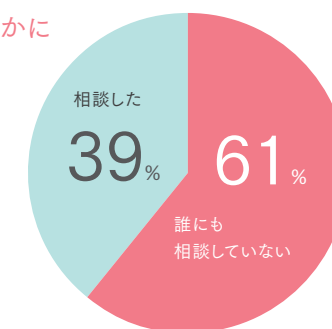


相談者の年齢は、10代が40%

窓口開設当初、10代は**15%**でしたが、徐々に10代の割合が増え、現在は、**40%**を占めています。もう少し詳しく見ると、2019年12月から10代の相談は**50%**を超え、2020年3月には**60%**が10代からの相談でした。若年者の相談は、今後も増えていくと予想しています。

当窓口以外の誰かに相談しましたか？

n=1517



相談できる人が身近にいない相談者

妊娠葛藤は、身近な人たちにも相談しにくく、また、そもそも相談できる相手がなく孤立している相談者が多いことがわかります。

相談内容

妊娠したかもしれない相談 **70%** 思いがけない妊娠 **15%**
中絶について **4%** 妊娠・出産前後の不安 **4%**
出産・養育に関する相談 **1%** その他 **5%**



面談・同行支援



2019年4月～2020年3月の同行支援は7ケース、やりとり回数は444回。

すべてのケースが、安心安全な居場所を持たない18歳～23歳までの若年妊婦の支援でした。医療機関につなげ、保健センター、福祉事務所などにつなぎ、妊娠という課題は解決しました。けれど、それぞれの抱えている課題、安定した住居や仕事、教育の機会を手にするなど、もともとの問題解決には、まだまだたくさんの時間が必要です。

同行支援
7ケース

やりとり回数
444回

2019年4月1日～2020年3月31日 にんしんSOS東京の相談件数



ピッコラーレが大切にしている支援の一つに、面談・同行支援があります。

相談窓口につながり、私たちと電話やメールのやりとりをすることで解決の糸口が見え、そこから先は、ご自身の力で課題を解決していくケースもたくさんあります。けれど、なかには伴走者が必要な方たちもいます。そして、その方たちは、妊娠をするそのずっと前から、様々な困難—貧困、虐待、暴力などを抱えていることが多いのも事実です。

これまで、誰にも「助けて」を言うことができずにいたけれど、妊娠をしたために、もう一人ではどうしようもなくなって、やっとの思いでピッコラーレにつながった人たちです。貧困、虐待、暴力などに晒され続けていると、「助けて」と言ってもいいのかわからなくなるし、「助けて」と言ってみたものの、怒られるのではないかと考えていることも珍しくありません。

私たちは、そんな相談者に少しずつ少しずつ近寄って面談し、必要な社会資源につなぐために同行します。

相談してくださって、本当にありがとう。

ここからは、私たちも、あなたと一緒にこれからのことを考えさせてくださいね。

メールから電話へ。電話から面談、そして関係機関への同行へ。妊娠という期限が限られている課題を前に、相談支援員に焦る気持ちが沸き起こりますが、この一見もどかしいステップが大事だということを私たちは知っています。一つ一つ、相談者の息遣いに合わせて、相談者の気持ちの先を行かないようにしていくことこそが、彼らが本来持っている、幸せに生きようとする力を取り戻すための、大事な作業になるからです。

他機関連携

保健センター 7件

福祉事務所 3件

医療機関 7件

児童相談所 2件

母子生活支援施設 1件

婦人保護施設 1件

宿所提供施設 2件

民間支援団体 9件(面談のみ 6件)

ピッコラーレの相談体制

現在3つの相談窓口を運営しています。

にんしんSOS東京(2015年12月 自主事業として開設)
にんしんSOS埼玉(2018年7月 埼玉県より受託)
にんしんSOSちば(2019年1月 千葉県より受託)
特定妊婦に対する産科受診等支援(2020年1月 東京都より受託)

ピッコラーレ 妊娠葛藤相談窓口の仕組み



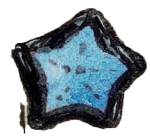
個性あふれる、多職種、多彩な相談支援員チーム



ピッコラーレの相談支援員は、助産師、看護師、保健師、医師、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、臨床心理士、保育士、教員、と実にさまざま。多様なのは、資格ではありません。当然ながら、それぞれに個性あふれるメンバーです。ですから、ときには、支援方法を巡ってぶつかり合うこともあります。でも、それは、わたしたちにつながった相談者の方をより深く理解するためには、必要不可欠なこと。

25名
2020年3月現在

妊娠葛藤相談は、医療的支援だけでは十分ではないし、福祉的支援だけでも足りません。多様な視点が必要です。多様な職種のスタッフが、それぞれの専門性を活かして、立体的に、多面的に、支援を考えます。相談支援ってなんだろう、聴くってどういうことなのだろう、指導的になっていないだろうか、相談者の方の力を奪っていないだろうか、と考えながら、電話を取り、メールを書いています。



居場所事業



HOMEのない妊婦のための

project HOME

居場所を失った若年妊婦に「いつでもおいで」と言えるHOMEを作りたい。



夜間、日に日に大きくなっていくお腹に恐怖を感じながら、やっとの思いで私たちの相談窓口につながった彼女がいる場所は、公園でした。それまで一緒に暮らしていた相手からの暴力に耐えられず、部屋を飛び出してきたのです。

ピッコラーレの相談窓口には、ネットカフェ、友人宅や恋人ではない男性の家などを転々とし、居場所が定まらず「漂流」していたり、その状況に陥る可能性のある10～20代の方からの相談が少なくありません。彼女たちの背景には、DV、虐待、貧困、不安定な就労、精神疾患など、自分では解決できない社会的な問題が存在している場合がほとんどです。そんな彼女たちのSOSをしっかりと受け止め、今後のことをゆっくり安心して考えられる空間や時間を提供できる「居場所」は、まだまだ足りないのが現状です。「足りないのだったら作ろう」。ピッコラーレは、そう考えました。

「もう大丈夫、心配しなくていいからね。ここでゆっくり休息しながら、これからのことを一緒に考えましょう」「いつでもおいで」そんなふうに彼女たちに言える場所を作りたい。

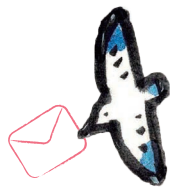
ピッコラーレは、居場所を持たない妊婦のための居場所づくり「project HOME」の構想を、認定NPO法人PIECESとの協働により、2017年からスタート。2019年7月には、豊島区の地域貢献型空き家利活用事業として、一戸建てを借り、本格的に動き出しました。

2020年3月末から、クラウドファンディングを行い、640名の方から総額775万円のご支援をいただき、2020年5月現在、妊婦が宿泊できる2部屋の個室を整えることができます。

project HOMEのHOME第1号の名称は、「ぴさら(フィンランド語でしずく)」と決めました。



協働団体からのメッセージ



オープンで社会と安全につながる場所を目指して。

認定NPO法人PIECES
理事／ソーシャルワーカー
齋 典道

若年妊婦に限らず、複雑な環境の中で生まれ育ち、心に傷を抱えながらも安心して頼れる人がいない、頼っていいことを知らない子ども・若者とこれまで多く出会ってきました。彼らには関わる他者がいなかったわけではありません。ですが、大切にされる経験が乏しかったり、誰かがふりかざした正義で傷ついたりする中で、社会からの孤立を深めているのです。

日常の中に、自分のことを気にかけてくれる、信じてくれる人の存在があることの大切さを痛感しています。

PIECESはこれまで、子どもが孤立しない環境を作るために「市民性の醸成」に取り組んできました。子どもに限らず、人の生活を支えるのは必ずしも公的な支援や専門的な支援だけではありません。むしろ、肩書のない一人の市民としての関わりだからこそ、育める安心感や築ける関係性があることを、この間の取組を通じて実感しています。

この project HOME においても、人がもつ他者への想像力や何かをしたいという想い、そんな「市民性」をエネルギーに変えていけるように、地域や社会とのオープンなつながりや対話の機会を作ることに取組んでいます。

project HOME での出会いや経験によって、困ったときには誰かが助けしてくれるかもしれないと思えること。あるいは、ふとしたときに「〇〇さん」の存在が思い浮かぶ、そんなことを目指していきたいです。さらに、できる限り多くの人たちがこの取組に関わっていく中で、関わった人のまなざしが変わっていく。そこから少しずつ、地域の、そして社会のまなざしが妊婦さんや子どもにとって優しく温かなものになっていく。そんな未来のために、ピッコラーレさんと手を携え、project HOME を展開していきたいと思います。



認定NPO法人PIECES

子どもたちの生きる世界が寛容になることを目指して、様々な環境に生きる子どもたちの周りに「優しい間」を生む市民育成事業を展開しています。

projectHOME 主な準備(2019年度)

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
イベント				project HOME 発表イベント 11/29					
クラウドファンディング								クラウドファンディング 3/30	
物件		リフォーム工事 内容すり合わせ		耐震補強・リフォーム工事 開始		工事完了		引越	project HOME 妊婦の受け入れ開始
その他	韓国の未婚母子施設「愛蘭院」視察 8/7-9								

project HOME はこんな場所

1 安心して 休息できる 場所



- 妊娠の週数に関わらず、いつからでも(つながったその日からでも)身を寄せることができます。
- 利用に費用はかかりません。また土日に関わらず利用できます。
- 妊婦さんに必要な衣類や衛生用品があります。
- 宿泊のできる個室が2つあります。
- 妊娠検査薬での検査をしたり、妊婦健診の受診や行政の窓口へ出かけるときはスタッフが同行することもできます。
- キッチンがあり、私たちと一緒に、あるいは個室で一人でも、食事をすることができます。その日に食べたいものを一緒に作ったり、赤ちゃんが生まれた後には離乳食を作ることもできます。
- Wi-Fiが使えます。ポケットWi-Fiや携帯電話の貸し出しもします。

2

未来のことを ゆっくり 考えられる 場所



- 勉強をしたい、アルバイトをしたいという場合は連携先の支援者につなぐことができます。また、勉強や仕事の間は、子どもを預けることもできます。
- 自分の身体や心のこと、避妊や妊娠のこと、パートナーのことなどを相談できます。コンドームも無料で提供しています。
- この場所を離れたあとの暮らしについて、スタッフと一緒に考え、必要な支援者と出会うことができます。

3

しんどくなったら、 またSOSを 出せる場所



- この場所を離れたあとでも、例えば子どもと二人きりの生活がなくなったときなど、休息先として親子で宿泊したり、子どもを預けて一人の時間を作ることができます。
- いつ立ち寄ってもウェルカムです。話し相手がいて、仲間との出会いがあります。



稲葉 剛

(一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事、立教大学教員)

いつでも気軽に立ち寄れる場所。いざとなれば宿泊もできる場所。「そこに行けば、話を聴いてくれ、手を差し伸べてくれる人がいる」という安心を担保できる場所。私自身、生活困窮者支援に取り組む中で、そうした場の必要性を痛感してきました。
project HOME は、「にんしん」にまつわるSOSを受け止める場であるとともに、「妊婦さん」と呼ばれるようになった彼女たち一人ひとりが、日々のつぶやきや喜怒哀楽を表現してもいいんだと心から思える場になることでしょう。そんな居場所をつくる取り組みに参画することは、きっと私たち自身を豊かにしてくれるはず。



荒井 佑介

(NPO 法人サンカクシャ代表理事)

中島さんから project HOME の話を聞いたとき「こんな場所がもっと早くあったらな」と思いました。ピッコラーレのこれまでの活動を聞いていて、居場所を構える必要性をすごく感じましたし、何より居場所があることで、救える命もあると思います。

サンカクシャは豊島区の要所に居場所があるので、すぐ近くに「びさら」があってとても心強く感じています。サンカクシャとしても、「びさら」を利用する子と関わられたらと思いますし、仕事のサポートなど一緒に取り組みたいと思っています！「びさら」が全国各地に広がっていけるように応援しています！

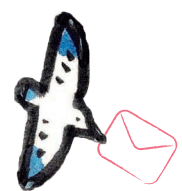


天野 敬子

(NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク事務局長)

私は WAKUWAKU ホームという子どもが泊まれる場所を運営しています。ピッコラーレさんからのご依頼で、緊急に宿泊が必要な場合に、WAKUWAKU ホームを利用していただいたことがあります。一人の若者を共に支援する中で、ピッコラーレさんの丁寧な伴走的支援に感心致しました。これからも協働していけたらと思っています。

千川に「びさら」が誕生しました。宿泊機能を持つと聞いております。行き場のない若者が救われると思います。また、WAKUWAKU もこの場所でピッコラーレと共に地域の子どもと大人がつながるために活動をしていければと思っています。今後、「びさら」が、地域の大事な居場所に育っていくことを期待しています。



協力団体からのメッセージ



研修・啓発



思いがけない妊娠相談事例から学ぶセミナー ～きくこと、よりそうこと、つたえること～

妊娠葛藤相談窓口から見える課題の周知、妊娠葛藤相談窓口の相談支援員のスキルアップ、その他さまざまな視点から「妊娠葛藤」の問題を考え合うための研修を行なっています。

2019年度は2回開催し、全国各地から46名の方がご参加くださいました。ちょっぴり長いこの研修名には、私たちの思いが込められています。一般的な妊娠葛藤の概念や問題を学ぶのではなく、窓口開設以来、相談者の方とのやりとりの中で感じ、学んできたこと、耳を傾けるとはどういうことか、どう寄り添えばよいのか、どのように伝えたらいいのか、そこに根ざし、相談のかたわらで、一から作ってきたプログラムです。

A、Bそれぞれ2日間をかけ、4日間で5つの講義と、6つのグループワークに参加していただきます。A研修は、支援者として活動されている方やこれから活動しようという方に限らず、この分野に関心のある方どなたでも受講いただけます。B研修は、すでに支援者として活動されている方、これから活動しようとしている方向けの実践的なプログラム。(ピッコラーレで相談支援員として活動を希望されている方は、「研修A&B」すべてのプログラムを受講した上でご応募いただく仕組みをとっています)

2020年度は、よりいっそう現場に応える学びになるようプログラムを見直しました。

19年度 第1回 研修A&B
研修A:2019/7/20,21
研修B:2019/8/3,4
参加人数
A:21名 B:13名
研修費
A:15,000円
B:20,000円

19年度 第2回 研修A&B
研修A:2019/11/30,12/1
研修B:2020/1/19,26
参加人数
A:25名 B:18名
研修費
A:15,000円
B:20,000円

研修を受けた方のアンケート(抜粋)

いろいろな考え方があるんだと再認識したり、自分の考え方、感じ方にはこれまでの自分の生き方が大きく関わっている事を改めて思った

研修A 感想

妊娠葛藤相談が起きる背景は、自己責任論ではないことを改めて再確認できた



中絶や出産それぞれの選択肢に合わせて、使える制度などが具体的に紹介されており、相談事例に合わせた活用方法も合わせてわかりやすく勉強になった

研修B 感想

相談してきてくれないことには何も始まらないので、まずは、「また相談したいと思ってもらえる」と、いう意識は最重要だと感じた。そして言葉の端々に、相談者さんに寄り添うという気持ちが感じられて感動した

予告

「思いがけない妊娠相談事例から学ぶセミナー2020」セミナー日程 (定員に達したため、申込み受付は終了しました)

研修Aプログラム:2020年9月13日(日)

研修Bプログラム:2020年10月31日(土)&11月1日(日)

※セミナーの詳細については、ホームページ(<https://piccolare.org/cat-news/20200422/>)にてご確認ください。

2019年度 講演実績

2019年度 取材実績

(2019年4月～2020年3月31日)

●5月22日
「思いがけない妊娠をされる方の現状や相談窓口(にんしんSOS東京)の紹介」
(府中市保健センター 養育困難家庭事例検討会)

●5月25日
「誰もが“にんしん”をきっかけに自由にしあわせに生きていくことができる社会へ」
(慈愛寮を支える会)

●5月24日
「妊娠SOS相談事業について」
(千葉県市町村等母子保健担当者会議)

●7月6日
「挑戦☆子育て家庭を孤立させない～施設の多機能化を考える～」
(NPO STARS)

●6月13日
東京アンブレラ基金
『妊娠により居場所を失う。一方で、居場所がないから妊娠する方も・・・』『にんしん』をきっかけに自由に幸せに生きることができる社会をめざして』

●6月20&23日
リディラパジャーナル
若年妊娠の特集記事にインタビューの一部が掲載

●8月31日
「少女・若年女性の妊娠・出産にどうよりそい支えるか」
(一般社団法人若年プロジェクト)

●7月24日
『「にんしん」にまつわる全てのSOSに寄り添うために」
(埼玉県男女協働参画推進セミナー 性暴力セミナー)

●9月13日
『「にんしん」をきっかけに、誰もが孤立することなく自由に幸せに生きることができる社会へ」
(志翔会)

●9月12日
「特定妊婦への支援」
(豊島区子ども家庭部職員研修)

●8月1日
THE BIG ISSUE JAPAN 364号
「居場所がない妊婦」からのSOS!

●10月25日
「にんしんSOSにおける活動と相談者の実態について」
(日本助産師会(東京))

●9月27日
「にんしんSOSの現場から～孤立する妊婦に対する支援～」
(杏林大学医学部付属病院)

●10月28日号
AERA
ネットカフェやサウナを転々「住まいの貧困」が急増中(HOMEのない妊婦のための居場所「project HOME」について)

●10月30日
「ピッコラーレのこれまでの活動、支援方法、事例など」
(豊島区東部子ども家庭支援センター)

●12月13日
NHKラジオ深夜便
「人権インタビュー」
孤立する妊婦と虐待死する赤ちゃんを救いたい

●10月
Youtuber シオリヌさんとの対談
「にんしんSOS予定外の妊娠で困ったらどうする?」

●6～8月
「健やか親子21(第2次)」
中間評価等に関する検討会

●12月4日
「相談対応におけるスキルアップや支援の在り方について」
(柏市保健所)

●1月20日
「ピッコラーレの活動紹介」
(としま100人会議1分10秒)

●1月18日
「にんしんSOSにおける活動と相談者の実態について」
(日本助産師会(大阪))

●1月23日
『「特定妊婦への支援」にんしんにまつわるどんなSOSにも寄り添いたい」
(赤ちゃんポストと子どものいのちを考える会@sendai)

●2月7日
「予期しない妊娠への支援」
(埼玉県妊婦期からの虐待予防強化事業研修会)

●2月22日
「胎児期からのいのちを守る取り組み～にんしんSOSの役割～」
(小児保健協会、埼玉県小児科医会、日本小児科学会埼玉地方会合同セミナー)

●2月27日
「若年女性の支援について考える～にんしんSOS東京の相談に学ぶ～」
(婦人相談員及び母子自立支援員 研修)

●3月6日
「妊娠SOSの相談現場から～思いがけない妊娠の背景にある社会課題と必要な支援について」
(川崎市男女共同参画センター)

●2月25日
「特定妊婦特に若年妊娠の支援の実例」
(群馬県助産師会ぐんま妊娠SOS研修会)

●1月14日
BuzzFeed.News
ネットカフェを“漂流”する妊婦がいる。最後まで母親一人で抱えてしまうことで起きる悲劇

●1月2日
毎日新聞
妊娠を誰にも言えず、ネットカフェ転々・・・“漂流”している妊婦に「居場所」を

●2019年秋冬号(12月)
女も男も No.134
セクシュアリティ教育
思いがけない妊娠とまどう人に寄り添う

●2月12日
NHKラジオ深夜便「人権インタビュー」(再放送)
孤立する妊婦と虐待死する赤ちゃんを救いたい



調査研究・政策提言



「妊娠葛藤白書」の発行に向けて

2020年12月発行予定で「妊娠葛藤白書」を制作中です。

「私ってさ、透明人間みたいな気がするんだよね」。同行支援した若年妊婦の言葉です。

やっとの思いで電話やメールを届けてくれた彼女たちを、透明人間にしてはいけない。社会の中にいて、生きていてもいいのだ、生きてよかった、と感じられる時間、嬉しい気持ちでいられる時間がもっともっと増えて欲しい。彼女たちが、自分自身を諦めなくて良いように、社会に彼女たちの居場所を作る必要がある。そのためには、若年の妊娠葛藤があることを社会に広く伝え、社会課題として認識してもらわなければならない、と考えるようになりました。

社会に広く伝える方法の一つとして選んだのが、私たちの窓口に寄せられた相談記録を元にした「妊娠葛藤白書」の作成です。

2019年夏に白書チームを発足させ、妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」開設から5周年を迎える2020年12月の発行を目指して、現在、相談窓口寄せられた声を整理・データ化し、分析を進めています。監修は、立教大学 湯澤直美先生にお願いしました。

3部から構成される白書の第1部では、妊娠葛藤相談体制がいま日本のなかでどのようなになっているかを分析します。リプロダクティブ・ヘルス&ライツの視点から見た課題にも踏み込みたいと考えています。第2部は、ピッコラーレの相談窓口の数的データを分析する中で見えてきたことを記します。そして第3部は、この白書の中心課題である、若年妊娠を取り上げます。白書を通して、「透明人間」にされている若年妊婦が置かれている状況を客観的に提示し、彼女たちを取り巻く現代社会の問題点を明確化していきたいと考えています。

※「妊娠葛藤白書」は、「ソーシャル・ジャスティス基金」および「日本財団」より助成を受けて作成を進めています。

2019年度 研究会委員等

●11月23日
「児童虐待防止講演会トークセッション」
(墨田区子育て支援総合センター)

●12月4日
「相談対応におけるスキルアップや支援の在り方について」
(柏市保健所)

●1月20日
「ピッコラーレの活動紹介」
(としま100人会議1分10秒)

●1月18日
「にんしんSOSにおける活動と相談者の実態について」
(日本助産師会(大阪))

●1月23日
『「特定妊婦への支援」にんしんにまつわるどんなSOSにも寄り添いたい」
(赤ちゃんポストと子どものいのちを考える会@sendai)

●2月7日
「予期しない妊娠への支援」
(埼玉県妊婦期からの虐待予防強化事業研修会)

●2月22日
「胎児期からのいのちを守る取り組み～にんしんSOSの役割～」
(小児保健協会、埼玉県小児科医会、日本小児科学会埼玉地方会合同セミナー)

●2月27日
「若年女性の支援について考える～にんしんSOS東京の相談に学ぶ～」
(婦人相談員及び母子自立支援員 研修)

●3月6日
「妊娠SOSの相談現場から～思いがけない妊娠の背景にある社会課題と必要な支援について」
(川崎市男女共同参画センター)

●2月25日
「特定妊婦特に若年妊娠の支援の実例」
(群馬県助産師会ぐんま妊娠SOS研修会)

●1月14日
BuzzFeed.News
ネットカフェを“漂流”する妊婦がいる。最後まで母親一人で抱えてしまうことで起きる悲劇

●1月2日
毎日新聞
妊娠を誰にも言えず、ネットカフェ転々・・・“漂流”している妊婦に「居場所」を

●2019年秋冬号(12月)
女も男も No.134
セクシュアリティ教育
思いがけない妊娠とまどう人に寄り添う

●2月12日
NHKラジオ深夜便「人権インタビュー」(再放送)
孤立する妊婦と虐待死する赤ちゃんを救いたい



2020年1月10日(金)
ソーシャル・ジャスティス
助成フォーラム登壇の様子

●「妊娠葛藤白書」関連イベント

2019年度

2020年1月10日(金)ソーシャル・ジャスティス助成フォーラム出席

2020年度

2020年8月3日(月)アドボカシーカフェ第65回 登壇(ソーシャル・ジャスティス基金 主催)

2020年12月～21年1月頃、白書発行記念イベントの開催を予定

収支報告

		(単位：円)	
科 目		金 額	小計・合計
【A】 経 常 収 益			
1 受取会費	正会員受取会費 賛助会員受取会費	100,000 80,000	180,000
2 受取寄附金	受取寄附金 物品寄附	3,403,657 50,112	3,453,769
3 受取助成金等	民間受取助成金	13,030,000	13,030,000
4 事業収益	性の健康や妊娠・出産に関する相談支援事業収益 青少年や母子の健康推進に関する啓発普及やそれに関連する事業収益	28,224,426 159,870	28,384,296
5 その他の収益	受取利息 雑収益	145 58,776	58,921
経 常 収 益 計			45,106,986
【B】 経 常 費 用			
1 事業費	(1) 人件費 給料手当 役員報酬 法定福利費 通勤費 (2) その他経費 売上原価 旅費交通費 業務委託費 印刷製本費 会議費 施設等利用料 交際費 通信運搬費 消耗品費 修繕費 水道光熱費 地代家賃 減価償却費 保険料 諸会費 租税公課 研修費 新聞図書費 広報費 診療費用(相談者分) 支払手数料	25,913,782 3,120,800 2,118,887 1,163,606 33,984 364,346 2,851,310 387,899 110,988 146,970 21,773 857,156 752,053 461,340 72,392 897,040 7,635 1,000 5,000 40,400 10,000 3,200 28,404 146,560 147,231	32,317,075 7,346,681 39,663,756
事業費計			39,663,756
2 管理費	(1) 人件費 役員報酬 給料手当 法定福利費 通勤費 (2) その他経費 管理諸費 印刷製本費 会議費 交際費 通信運搬費 消耗品費 保険料 諸会費 租税公課 施設等利用料 支払手数料	1,800,000 2,516,600 275,149 83,003 273,000 147 22,803 9,520 26,599 14,883 13,000 3,000 12,922 2,400 322,165	4,674,752 700,439 5,375,191
管理費計			5,375,191
経 常 費 用 計			45,038,947
当期 経 常 増 減 額 【A】－【B】・・・①			68,039
【C】 経 常 外 収 益			
	固定資産売却益 過年度損益修正益	0 0	0
経 常 外 収 益 計			0
【D】 経 常 外 費 用			
	固定資産売却損 災害損失 雑損失	0 0 14,474	14,474
経 常 外 費 用 計			14,474
当期 経 常 外 増 減 額 【C】－【D】・・・②			-14,474
税 引 前 当 期 正 味 財 産 増 減 額 ①+②・・・③			53,565
		法人税、住民税及び事業税・・・④ 前期繰越正味財産額・・・⑤	70,000 152,935
次 期 繰 越 正 味 財 産 額 ③－④+⑤			136,500

助成実績

- 公益財団法人 日本財団
- オープン・ソサエティ財団・JANIC
- グローバル共生ファンド助成事業 ソーシャル・ジャスティス基金
- NPO法人 ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京(SVP東京)

企業・団体からのご協力

- プロボノ
- NPO法人 ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京(SVP東京)

寄付

- 一般社団法人つくろい東京ファンド
- 東京アンブレラ基金(緊急宿泊支援費助成、寄付)
- ロート製薬株式会社 かるがも基金

ご支援のお願い

ピッコラーレの活動は、皆さまのご支援に支えられています。「『にんしん』をきっかけに、だれもが孤立することなく、自由に幸せに生きることができる社会」の実現に向けて、広報やご寄付等での応援、どうぞよろしくお願いします。

寄付をする

あなたも、居場所のない孤立した妊婦を支えるサポーターになりませんか？



マンスリーサポーター制度
(毎月の継続的なご支援)

毎月 1,000円、2,000円、3,000円、5,000円、
10,000円、30,000円 の6種類から選べます。

都度のご寄付

いつでもご寄付いただけます。

ご寄付の方法

クレジットカード

各種クレジットカードをご利用いただけます。



ピッコラーレのウェブサイトから
<https://donation.piccolare.org/>



郵便振替

口座番号：00130-0-515041
口座名義：トクヒピッコラーレ

お振込

ゆうちょ銀行
記号：00130 番号：515041

※他行よりお振込みの場合
店名 〇一九(019)
当座 0515041
特定非営利活動法人ピッコラーレ

※お振込にてご寄付いただいた方は、お手数ですが、お名前、電話番号、郵便番号、住所のご記入をお願い致します。お礼のご連絡や活動の報告をさせていただきます。

賛助会員になる

わたしたちの活動にご賛同頂き、継続的に参加・協力・支援くださる賛助会員を募集しています。



賛助会員年会費

個人 一口 5,000円

団体 一口 50,000円

お申込みフォーム

個人の方



団体の方



その他の支援方法

♡つなげる募金

ソフトバンクの寄付サービス。携帯電話利用料金やTポイントのお支払いと一緒にご寄付いただけます。



ありがとう。ブック

ご不用になった本・DVD・CD・ゲームなどをお送り頂くことで、支援できる仕組みです。



お宝エイド

使わなくなったお家に眠っている“お宝”をお送りいただくことで、支援できる仕組みです。



書籍を買う

漂流女子 ―― にんしんSOS東京の相談現場から

朝日新書

著者 中島 かおり

